

# 保健だより

(保護者の皆様も一緒にお読みください)

令和6年3月1日 NO, 12  
海田中学校保健室発行 「絆」



人の心は不思議です。何かを「よし、やるぞ!」と思って**“心のスイッチ”**を入れると、やる気が出てきて、とても大きな力が発揮できるものです。しかし、“心のスイッチ”が入らない時はどうでしょうか?廊下や階段にごみが落ちていても知らん顔をしたり、人が困っていても見て見ぬふりをしたり、人の話をしっかり聴くことができなかつたりします。

## 自分の心のスイッチは、自分でしか入れられないのです。

3年生は3日が卒業式ですね。これまで出会った多くの人たちは、皆さんの心の成長にかかわってくれたはずです。1・2年生も同じように、自分に関わってくれたすべての人たちへ**“感謝”**の気持ちを忘れないで生活してもらいたいものです。人は人との関係の中で心を育ててもらい、自分で心のスイッチを入れることができます。

## “心のスイッチ”

人間の目は ふしぎな目  
見ようという心がなかったら 見ているも見えない

人間の耳は ふしぎな耳  
聞こうという心がなかったら 聞いていても 聞こえない

頭もそうだ はじめから よい頭 わるい頭の区別があるのではないようだ  
「よし やるぞ!」と 心のスイッチがはいると  
頭も すばらしいはたらきを始める

心のスイッチが 人間をつまらなくもし すばらしくもしていく  
電灯のスイッチが  
家の中を明るくもし 暗くもするように

日本の教育者  
東井義雄



## 保護者の皆様へ

## ～心の成長は無量大～



生徒一人一人の持っている**可能性**を引き出すということは・・・

子供のあらゆる体験の中で、大人が示していく役割はとて大きいです。

できるかできないかで判断せずに、その子なりの個に応じた“有り様”を肯定していきたいものです。踏ん張ってできない時は、踏ん張ったことをほめましょう。

『ほめて育てる』ためには、日頃から、子供とのコミュニケーションの時間を大切にしなければなりません。子供が心の光を発したその瞬間を見逃さないことです。

保健室では、次のような子供を育てたいと考え、日々対応をしています。

**99%**だめだと思っても、**1%**の可能性をあきらめないこと・・・。